

各地の話題 色麻町

泥んこまみれになって田植え体験 米作りの大変さを学ぶ

2026年6月19日号掲載



色麻町の義務教育学校の色麻学園で、5年生53人が5月19日に学校田で「ひとめぼれ」苗の田植え体験を行った。子どもたちはイネの苗を手で植え、食べ物を作る苦労や食への感謝を学んだ。

同校は学校や家庭、地域社会が一体となって子どもを育てる「地域学校協働活動」を推進しており、田植え体験はこの一環だ。町の教育委員会と連携し、作業は地域ボランティアや農業委員、JA加美よつば等と一緒に行った。

約10畝の学校田は農業委員の大泉貞行さんが管理しており、当日は4畝に定植。児童たちは昔ながらの杵回しで苗を植える場所に目印を付けた。「苗は3～5本ずつ取り、指の第1関節程度の深さを目安に植える」といった指導を受けた後、裸足で田んぼに入って作業開始。慣れないぬかるみに足を取られ転倒する児童もあり、みんな笑顔で取り組んでいた。

田植えを終えた児童は、「大変だったけど楽しかった」、「おいしいお米になってほしい」と話していた。今後は観察を行い、収穫作業を10月に行う計画で、コメは調理実習で使用する予定だ。

【記事提供】 色麻町農業委員会

当日の田植えの様子



杵回しをする子どもたち

